

## 日中組立式建築セミナー開催報告

### 1. 経緯

2019年8月に、(一財)日本建築センター橋本理事長、(一財)ベターリビング井上理事長と、日中建築住宅産業協議会張本会長が北京を訪問し、中国不動産協会、中国建設科技集团股份有限公司との間で、「建築生産工業化分野における日中双方の協力に関する覚書」に調印しました。それを受け、建築生産工業化の理念と、日本の建築生産工業化の発展経緯と要素技術に対する理解を深めるために、北京でセミナーを開催する運びとなりました。

2. 日時：2019年11月21日(木)9:00~17:00

3. 場所：北京天泰賓館1階宴会場

4. 主催 日側：(一財)日本建築センター、(一財)ベターリビング、日中建築住宅産業協議会  
中側：中国不動産協会、中国建設科技集团股份有限公司

5. 後援：日本国土交通省

6. 参加機関 日側：国土交通省、在中華人民共和国日本国大使館、日中建協；13社44名  
中側：住宅都市農村建設部、河北省、雄安新区計画建設局、中国不動産協会、中国建設科技集团股份有限公司(来場者：設計事務所343名、デベロッパー202名、製造業195名、建設業178名、学生102名、他 合計1,132名)

### 7. セミナープログラム

09:00~09:30 開幕式、あいさつ

中国住宅都市農村建設部基準定額司 倪江波一級巡視員

日本国土交通省 小林靖大臣官房審議官

中国不動産協会 陳宜明副会長兼秘書長

在中華人民共和国日本国大使館 石月英雄公使

中国建設科技集团股份有限公司 修龍董事長

(一財)日本建築センター/日中建築住宅産業協議会 橋本公博理事長/副会長

09:30~11:30 集合住宅分野での日本の建築生産方式の発展とプレハブ技術

11:30~12:00 日本建築構法と工業化

13:30~14:30 三井不動産レジデンシャルにおける標準化と部材・商材の選び方

14:30~15:30 日本におけるユニットバスの発展について

15:30~16:30 日本における集合住宅の構造技術について

16:30~17:00 中国プレハブ建築の現状

### 8. 講演について

#### 1) 集合住宅分野での日本の建築生産方式の発展とプレハブ技術

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻特任教授 松村秀一氏

はじめに、建築生産の工業化の定義について、「建築生産において工業的に進んだ技術の開発と適用を促進するとともに、技術の合理性が有効に発揮されるよう、建築関係者社会の仕組みを変革、整備すること」との説明があり、続いて建築生産工業化の目指すところは、「第1に発注者やユーザーにとって、建築がこれまでよりも入手しやすくなる状態。これは工事価格の低減や工期短縮の他に、現物を事前に把握しやすいこと、品質が保証されていることなど、ユーザーの不安感の



除去を含む。第2に建築生産者側にとって、不安定な労務環境や前近代的組織構造を脱し、高度な生産性が企業利潤の改善と結びついた形で実現する状態。第3にもっと広い社会的観点からみて、建築生産が適正または主導的な波及効果を生みつつ、国土・資源・都市・国民生活とバランスした良質な国富（建設ストック）を蓄積しつつある状態。以上の3つの側面で示し得るような1つの動的状態」であるという説明がありました。その後、建築生産工業化の欧米諸国での発展経緯、日本の集合住宅での発展経緯について、たくさんの実例写真を投影しての解説があり、特にプレキャストコンクリートと現場打ちコンクリートの使い分けについて多くの解説がありました。

## 2) 日本建築構法と工業化

株式会社呉建築事務所代表 呉東航氏

日本の建築における、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の用途による使い分けと、住宅部品の発展の歴史について説明がありました。

## 3) 三井不動産レジデンシャルにおける標準化と部材・商材の選び方

三井不動産レジデンシャル株式会社取締役常務執行役員 山田貴夫氏

三井不動産レジデンシャルの事業内容と日本における同社マンションのポジションの説明の後、マンションのマルチブランド戦略とそれぞれのブランドの概要・特徴についての説明や、独自の品質管理、アフターサービスについての説明がありました。

## 4) 日本におけるユニットバスの発展について

TOTO バスクリエイト株式会社代表取締役社長 橋口裕昭氏

日本のユニットバス工法の特徴についての説明の後、日本におけるユニットバスの歴史・変遷についての説明に加えて、中国でのユニットバス普及の可能性についても言及がありました。

## 5) 日本における集合住宅の構造技術について

独立行政法人国立高等専門学校機構小山工業高等専門学校教授 中島秀雄氏

集合住宅のRC造、鉄骨造、混構造（CFT, SRC）について、建築構造の視点からのメリット・デメリットとその使い分け、日本の高層住宅での構造種別の比率の変遷について説明がありました。

## 6) 中国プレハブ建築の現状

中国建築標準設計研究院総建築師 劉東衛氏

今回唯一の中国側からの講演。過去に日本で学んだ経験を基に、日本の組立式建築の発展状況と、中国の住宅工業化・組立式建築技術の発展状況と課題について説明がありました。

今回のセミナーには募集の1,000人をはるかに超える1,132人が参加し、インターネットライブ配信の視聴は延べ26,588人、同時視聴最高5,040人にのぼるなど、たいへんな盛況となりました。組立式（中国語では装配式）建築に対する中国建築業界の注目が非常に高いことが、この結果からも伺えます。組立式建築については、工法、部材など、まだまだ日本の方が進んでいる部分も多いと思われ、今回のセミナーが会員企業の皆さまの事業機会のお役に立つことを期待します。

このセミナーを受けた中国側の動きをこれからも注視していきます。



セミナーの内容については、会報誌「日中建協NEWS」No.244号（2020年3・4月号）に詳しく記載しています。